神のやさしさ(II):あなたも行って同じようにしなさい。神の 掟と慈しみ

2023/03/07

ある時、律法学者が主に近づき永遠 の命にいたるためにすべきことを尋 ねました。それは、知識人とは思え ない、このナザレの教師の真偽を確 かめるためだったのです^[1]。しかし 主はそれを気にすることなく耳を傾 け、質問されます。「律法には何と 書いてあるか。あなたはそれをどう 読んでいるか」 [2] と。学者は、すべ てのイスラエルの民が子どもの時か ら教わっているShemá Israel — イ スラエルよ、聞け ― の言葉で答え ます。「あなたは心を尽くし、魂を 尽くし、力を尽くして、あなたの 神、主を愛しなさい」[3]。主はそれ にレビ記の一節「自分自身を愛する ように隣人を愛しなさい | [4] を加え 「律法全体と預言者は、この二つの 掟に基づいている | ^[5] と言われまし た。それから学者に「正しい答え だ。それを実行しなさい。そうすれ ば命が得られる | ^[6]。 学者は自分の 疑問がこのように他愛無く単純に解 決されるとは思っていなかったの

で、彼は「自分を正当化しようと」があたな質問をします。「では、わたな質問をしますか」。。これでは、主ないの隣人とは誰ですか」、質問者のとなることなく、質問者のとお望みになりかられるではなくすべての時代ないではなくすがではなくすがでいる。それが、当時の平易で荘厳な、善きサマリア人の例え話です。

隣人になる

エルサレムからエリコに下る途中、 強盗に襲われたかわいそうな人にも 会の教父たちはアダムを、そした をといるですがらいまさのの罪にのです。 意味ではいるの罪にのですり がいます。 は、してでするしまででした。 は、してでする。 は、してでする。 は、してでする。 は、してでする。 は、してでする。 は、している。 は、こことがでいる。 は、こことがでいる。 は、こことがでいる。 にないます。 にはそれが可能でいます。 にはそれが可能である。 にはそれが可能である。 にはそれが可能である。 にはそれが可能である。

り、それをお望みなのです。古代の 尊敬すべき講話に、地獄に行きアダ ムと出会う話がありますが、この様 に思いめぐらしています。これは私 たち個々人に言えることです。「わ たしはあなたの神です。あなたのた め、またわたしが造り、あなたから 生まれた皆のため、今、わたしの権 限を示そう。何かに束縛されている 者には『出よ』、暗闇にいる者には 『光に行け』、眠りこけている者に は『目覚めよ』と告知する」^[9]。キ リスト信者は、イエスと共に、主の 救いをもたらすために ― つまり善 きサマリア人のように ― 招かれて います。主のように人々の傷の手当 てをし、油とぶどう酒で癒し[10]、サ マリア人に頼まれた宿の主人になら なければなりません。「この宿が教 会であることに気づきます。私たち も旅の途上に居るのですから、宿に 居るのです。私たちが決して手放せ ない家、それは天の御国に元気で到 達するとき手に入ります。それまで

は、この宿で喜んで治療を受けるの です」^[11]。

主は、この展望を、学者だけではなく全ての信者と、全人類に示そうと、彼の了見の狭さをとがめたりなさいません。考えさせた後で、これからのことに向かわされます。

「行って、あなたも同じようにしなさい」 [12]。福音書に度々示されているように、簡潔な話に関して大急ぎで結論を下さない方が良いのです。イエスの質問 — 誰が彼の隣人だったのか — への答えは明白です。

「その人を助けた人です」[13]。しかし、明白でないことは、主がなりまずない。 は法学者の意図をもう一度、取り言いないないです。 「イエスは視点を逆転です。 自分の隣人として他者のではなく、自分を他者の隣にすることです」[14]。 狭量な態度は、善行の範囲を狭めてしまいます。 一例えば、自分と同じグループ

かどうか、あるいはお返しが必要かどうかなど勘案して — 時間を無駄にしてしまうのです。主は高みを見上げるように勧め、自身と同じように隣人に相対しなさいとお答えになります。

かくして「隣人」と言う言葉は、私 の世話を必要としている人と言うこ とになり、心の品性を表すことにな ります。神の教育法では、誰に善行 をしますか、と言う質問に変わりま す。これは、律法学者の学校での議 論点であり研究している事で 一限 界はどこにするか、どの程度まで他 者に同情するか - 大胆な挑戦と言 うことになってしまいました。聖ヨ ハネ・パウロ二世が言われました。 キリスト信者は「愛さなければなら ないから、『隣人は誰か』と質問す べきではありません。ここで、もう 限界を設け条件を(…)付けること になります。真の質問は『誰が隣人 か』ではなく『誰を隣人にすべき

か』です。その答えは明白です。 『見知らぬ人であろうと苦しんでいる人は、私の隣人で、助けなければならない人です』」 [15]。これが、フランシスコ教皇の造語「同伴する技術」 [16] です。これは「無関心と言う大海原で慈しみの島」 [17] になるよう、隣人に同伴する私たちの召し出しを思い出させてくれます。

神の掟の充満を目指す歩み

律法学者との対話は、旧約聖書の倫理教育からキリストによる倫理生活の完成に至るまでを、要約している、と言えるでしょう。確かに、聖パウロが思い起こしているように選民の律法は善いもので望なるものではありません。何よりもそれは主をお迎えする準備のためのものでした。

ファリサイ人の質問 ―「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか」 「19] ― は、イスラエルの信仰生活

それで、イエス・キリストは最も重要なことが神と隣人に対する愛で廃立ることを指摘されます。主は「廃めではなく、完成するためではなく、完成する廃止すると、律法や預言を廃止するために来たのではないことを言れたいで自分の民と結ばするには幾つかの規定がありますは、その原初の意味は、重荷でものく、全く逆の自由に至るためのもの

でした。「見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。わたしが命じる通り、その道に従うなら(…)あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される」^[23]。

へブライ人に約束された土地は、あらゆる時代の人々の内的世界の前表で、主の掟を誠実に受け入れ、実行することで、私たちも入ることができます。それは、神との交流に導き入れる扉で、それ以外には相応しいものがありません。「幸せになるために必要なことは、楽な生活ではなく、愛する心である」[24]。

イスラエルの民の典礼や律法の規定はイエス・キリストの来臨で廃止されましたが、十戒ともいわれる神の 掟は永遠です。神を愛する事ができるための基本点を取り上げ、神のみ名を尊び、私たち信者が日曜日にす

るように、その祝日を祝い、他者へ の愛を深め、父母を敬い、命と心の 清さを守る…。イスラエル人は何世 代にも亘って、この十戒に託された 父なる神の真実といつくしみを黙想 しました。「あなたの定めはとこし えにわたしの嗣業です。それはわた しの心の喜びです」[25]。これは、私 達が迷わずに完全な道を歩むように と言う神の慈しみを表わしていま す。世界は時に十戒が人類史の初期 に示された幼稚で古びたものである かのように、それに逆のことを示し 得ます。しかし、十戒は無視できる と信じる社会や人の崩壊の例に欠け ることはありません。人間の内奥に は常に主の十戒が息づいています。 それがなくなると心は歪んでしまい ます、

御父の子どもになるために

十戒は、イエス・キリストが十字架 上のいけにえとなって私たちを救 い、制定された新しい律法を含んでいます。この新しい律法はキリストへの信仰を通して与えられる聖霊の恵みです[26]。それゆえ、今は、倫理的な視野は単に望みだけのものではありません。イエス・キリストのうちに生き、次第に主に似たものになるように、その掟を守るため、聖霊の働きに任せることです。

どのようにイエス・キリストに似る ようになりますか。どこに主のお姿 を見ることができますか。カテキズ ムに「真福八端はイエス・キリスト の姿を描き、その愛を映し出してい ます | ^[27] とあります。この教えは福 音を包括し、主の肖像が浮かび上が ります。その面立ちは全ての人に対 する御父のいつくしみ深い愛を表し ています。選民に対する約束を取り 上げていますが、しかし地上的な物 ではなく、天の国を受けることに向 けられています[28]。

マタイの福音は「真福八端」の最初 の4項目を取り上げ、主の行為に触 れつつ、イエスの言葉に重点を置い ています。「心の貧しい人は幸いで ある」[29]、「悲しむ人々は」[30]、 「柔和な人々は」^[31]、「義に飢え渇 く人々は | [32] と。主は、人間的な手 段ではなく全面的に神を信頼し、困 難をキリスト教的に受け入れ、日々 忍耐強くあるように招いておられま す。これらの真福に行動に関わる点 が追加されています。「憐れみ深い 人々」^[33]「心の清い人」^[34]「平和を 実現するひと|^[35] は幸いである。他 にも、イエスに従うため何らかの反 対をしのばなければならないことに も触れておられます^[36]。常に喜びを 持っている事。と言うのも「天国の 幸せは、この世で、幸せでいる事の できる人のため | [37] ですから。

真福八端は確かに神の慈しみを表わ すものですが、それは、主に従う人 に無限の喜びを与えようと熱望する 神のお言葉に他なりません。「喜びない。天いに喜びなさい。天いに喜びなさい。大きな報いがある」「2000」 (2000) (200

真福八端を度々念祷のテーマにすることで、どのようにそれを日常生活に当てはめるかが分かるようにはかるかられません。例えば柔和さは、使々「やっかいな人に対する微笑、根拠のない非難に対する沈黙、う人というの厄介で失礼な言動にこだわらないの厄介で失礼な言動にこだわらないこと…」[39] に具体化されるでしょう。

同時に、真福八端の精神に沿って生 きるよう努力するなら、ある態度や 判断の什方が身に付き、掟の実行が よりたやすくなります。心の清い人 は、個々人に神の姿を認め、一人ひ とりの人を尊敬できるようになり、 歪んだ望みを叶えようと他者を利用 することなど決してしないはずで す。平和への愛は、神の子どもとし て生き、また他者を神の子どもとし て認めるようにしてくれます。愛徳 の「最も優れた道」^[40] を辿り、「す べてを忍び、すべてを信じ、すべて を望み、すべてに耐え | [41]、無礼な ことに対しては、その人を愛し、祈 る機会にしていきます[42]。つまり、 私たちは心を真福八端に述べられて いることに沿わせ、イエス・キリス トの「あなたがたの父が憐れみ深い ように、あなたがたも憐れみ深い者 となりなさい | [43] と言われた理想を 実現していきます。私たちは神の愛 の運び手となり、他者を私たちの手 助けを必要としている隣人にするこ

とを学び、キリストにおいて、愛徳 の決まりを十全に果たした善きサマ リア人のように、慈しみの心で振る 舞う人になるのです。すると私たち は聖母のように心の大きな人になり ます。

Carlos Ayxelá - Rodolfo Valdés

- ^[1] ルカ10,25参照。
- ^[2] ルカ 10,26。
- [3] 申命記 6,5。
- [4] レビ記 19,18。
- [e]
- ^[5] マタイ22,40。
- ^[6] ルカ 10,28。
- 「プルカ 10,29。
- [8] 同上

- ^[9] 安息日の偉大さと聖なることに関する説教 (PG, 462)。
- [10] ルカ 10,34参照。
- ^[11] 聖アウグスティヌス、説教 131,6。
- ^[12] ルカ 10,37。
- [13] 同上
- ___ フランシスコ、2014年1月24日 メッセージ。
- [15] 聖ヨハネ・パウロ二世、1999年2 月2日講話。
- ___ フランシスコ、使徒的勧告「福音 の喜び | 169番。
- ___ フランシスコ、2014年10月4日 メッセージ。
- ^[18] ローマ 7,12参照。

- ^[19] マタイ 22,36。
- [20] ルカ 11,46。
- ^[21] ルカ15,3-6参照。
- [22] マタイ5,17。
- ^[23] 申命記30,15-17。
- [24] 『拓』795番。
- ^[25] 詩篇 119,111。
- [26] 「神学大全」I-II,q.106,a.1,c.~2参照。聖ヨハネ・パウロ二世、回勅「真理の輝き」24番に引用されている。
- ^[27] 「カトリック教会のカテキズム」 1717番。
- ^[28] 「カトリック教会のカテキズム」 1716番参照。
- ^[29] マタイ 5,3。

[30] マタイ5,4。 [31] マタイ5,5。 [32] マタイ5,6。 [33] マタイ 5,7。 [34] マタイ 5,8。 [35] マタイ5,9。 [36] マタイ5.10-12参照。 [37] 『鍛』1005番。 [38] マタイ 5,12。 [39] 『道』173番。 [40] ①コリント12,31。 [41] ①コリント13,7。 [42] マタイ5.44-45参照。 [43] ルカ 6.36。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Kami-noyasashisa-ii/ (2025/12/17)